

平成29年度第4回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 平成30年 2月22日(木)
◎開催日時 平成30年 3月16日(金) 午後1時30分～2時25分
◎場所 伊那市役所 庁議室
◎出席者 白鳥市長、松田教育委員長、宮脇教育委員長職務代理者、田畑教育委員、原田教育委員
◎欠席者 なし
◎出席職員 北原教育長、大住教育次長、吉田学校教育課長、小松生涯学習課長、捧文化振興課長、宮下スポーツ振興課長、中村指導主事、唐木指導主事、山崎教育総務係長
◎出席関係者 なし

1 開 会

大住教育次長

皆さん、こんにちは。雨のなか、また、年度末のお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。本年度最後となりました第4回目の伊那市総合教育会議をただ今から始めてまいりたいと思います。それでは、はじめに白鳥市長からごあいさつをお願いいたします。

2 市長あいさつ

白鳥市長

こんにちは。昨日、おとといと大変暖かい、4月の中旬とか5月の上旬の陽気だったんですが、一転して雨ということで、段々と春が近づいてくるという感じが、梅の花とか福寿草とか、様々な野の花から見えるわけではありますが、今日は伊那市総合教育会議、今年度最後ということでもあります。いくつか協議事項がありますので、1時間半という時間の中ではありますけれど、ご意見を賜りたいと思います。

また、明日、あさつと春の高校伊那駅伝ということで、大変大きな行事、全国でも注目される行事があるわけでありまして、また、4月の1日からはさくらまつりということで高遠城址公園、伊那公園、春日城址公園、いろいろなところでも桜のイベントがあるということです。

更に今年は特例ではありますが、4月10日の日に大相撲の伊那場所ということで、注目されるのではないかと思います。4月は大きな行事があつて担当も大変なんですけれど、それに加えて、安協のみなさん、ボランティアのみなさん、警察のみなさんの協力をいただきながら実施できるということに感謝申し上げながらあいさつとさせていただきます。

大住教育次長

続きまして、松田教育委員長、お願いいたします。

3 教育委員長あいさつ

松田教育委員長

ふたつお話をさせていただきたいと思います。ひとつは今、今年度の卒業式が行われておりますけれど、私は、卒業式というのは、子どもたちと全校の先生が創り出す今年度最後の授業であるというふうにかねてから思っております。そこには1年間の学校の取り組みの姿が表れてくると思います。私は伊那中学校と西春近南小学校の卒業式に参列し、明日は、伊那北小学校にお邪魔しますが、伊那中、それから西春近南小、いずれも素晴らしい卒業式で、とりわけ、西春近南小学校の卒業式では、保護者も式の中で役割を担うという感動的な卒業式でありました。ほかの学校も充実した卒業式であったのではないかと思います。よい卒業式に参列し、よい年であったということにまず感謝したいと思います。ふたつ目ですけれど、2月3日の土曜日の日に第39回となる伊那小学校の公開学習指導研究会が開かれました。前日には3歳から15歳までの学びを追究するというので、竜西保育園と伊那中学校の公開も行われまして、2日間にわたり大変充実した日でした。伊那小学校の公開には全国各地から500名近い参加者がございまして、遠く沖縄からも6名の参加者がありました。これだけ長く公開研究会を続けていて、しかも500名という多くの参加者がある学校は、全国的にも稀な存在であると思っております。

教育を進めるうえで、継続するということは大変重要な要素になりますけれど、継続という視点を大事にしまして、今年を振り返り、次年度を考えていく会議になっていけばいいと思います。ふたつお話をさせていただきました。

大住教育次長

それでは、協議事項に入りますので、後の進行を市長をお願いいたします。

4 協議事項

(1) 平成29年度伊那市教育委員会運営方針の振り返り

「伊那市教育委員会運営方針」の総括と次年度への課題

白鳥市長

それでは、最初に平成29年度伊那市教育委員会運営方針の振り返りということで、運営方針の総括と来年度への課題をお話しいただきたいと思います。

資料NO. 1に基づき、松田教育委員長説明

白鳥市長

はい。今この1年の振り返りのお話をさせていただきましたが、特にこんなところを強調したいとか、こうしたことについて載せた方がいいとか、そうしたことがあればご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

白鳥市長

直接関係ないんですけど、文化ですか、高遠石工の取り組みについて、来週の月曜日から新宿の紀伊国屋で高遠石工フェアということで行っていきますので、地域の文化を広く世に知ってもらいたいということもあるということを知っておいていただければと思います。併せて伊那の歴史も発表できればと、笹本先生と石工研究センターの熊谷さんが、24日ですかね、紀伊国屋のホールでトークショーを行います。なお

高遠石工をピーアールできればということでもあります。

北原教育長

内容のところ、少し学校のことをお話させていただきたいと思いますが、ふたつお願いします。

ひとつは、1ページ目の食育のところのイにあります「教科横断的な農業実践の取り組み」でありますけれど、例えば、高遠北小学校と長谷小学校の図工を通したICTの実践のなかで出てくるんですけど、高遠北小学校の4年生がこんにやくを作っています。最後は高遠そば祭りですプロ級のこんにやくが出てくるんですけど、それから、長谷小学校の4年生はひょうたん、どちらも見事なものを作っているんですけど、それを図工の絵に表しまして、それをお互いに非同期で「こういうのを作ったよ。」と時間をおいて見て交流するんですね。その量感、驚きはすごいものがありまして、お互い驚きながらその細やかなところに気づいて、描いた子が気付かなかったことを学んでいる。普段の食育のところを絵にしたり、ICTで自然につながっていることで、素晴らしいなあと思います。実はその絵を藝大の美術部の先生に見せましたら、「本当に素晴らしい。是非このデータを持ち帰らせてくれ。」と言われまして、両校のものを送りました。やはり、体験を通した実感が表現として出てくるという素晴らしい取り組みであったなあと思います。

ふたつ目は3ページの生涯学習課の「文化財の保護・充実」というところですけど、これまでもありましたけれど、東春近小で老松場古墳の発見とそれを題材にした劇を作りました。劇は優れた老松場の王と敵対する勢力があったんですけど、最後は一体化していくという、素晴らしい、子どもたちにとって夢のある劇を作ったり、それから西春近北小学校が総合的な学習でも発表しましたけれど、この地区には犬房丸の伝説があるということで、これを徹底追及して大型の紙芝居とし、地域のみなさんが、これは地域の宝だから、地域にいただきたいとのことでした。普段の活動から発展して地域を大事にしていくということがたくさん出てきました。

1年前になるんですが、高遠北小学校では、これまで消えかけていた三義音頭と踊りを復活させて、地域のみなさんに還元したり、こういう活動が、体験を通じて行われていることが大事な伊那市の教育かなあと思います。

白鳥市長

いくつかそうした事例を挙げさせていただきましたし、生き生きと子どもたちが地域の中で学習しながら暮らしている。ほかどうでしょうか。

宮脇教育委員長職務代理者

「暮らしのなかの食」なんですけれど、やはり中学生は時間が取れなくて、畑でいろいろ作るのが難しいかなあというなかで、長谷中とかは、一步発展してそれを取り巻く産業みたいところに発展して、中学生らしい眼の向け方ができているかなあと、私は高遠中でひとつ楽しみにしていることがあって、高遠中の畑って少し離れていて、水の便が悪いんです。藤沢川から水を汲んで、100メートルくらい運ばないとダメなんです。中学生は嫌になってくると思うんですね。そうした時にきっと灌漑施設を作るんじゃないかと思うんです。そういうところが発展していくんじゃないかという楽しみを持っているので、中学生は中学生の見方ができてくるといいなあと思っています。

白鳥市長

僕はすぐ水中ポンプをかければ良いと思うけど、別な方法があるかも知れないよね。

宮脇教育委員長職務代理者

中学生の発想で何か考えるんじゃないかと思うんです。

北原教育長

今言われたところですが、川から長いんですね。実は昔は水路があったんですが、今は埋まってしまっているというなかで、川から持ち上げると、それをどう工夫するかという課題があります。

宮脇教育委員長職務代理者

確かに嫌になってしまうと思うんですよ。

白鳥市長

あまり水を使わない作物を栽培するということもあるね。

松田教育委員長

教育長さんや職務代理さんが言ってくれたことなんですが、2ページに「いのちを再発見する」という講演を去年の11月16日の日に内山先生から言われたんですが、この③番のところにそのことが書かれていて、「農業というのは我々の生きる世界とは何かを教えてくれる。」というふうに先生はしてくれているんですけど、そのことは作物との係わりとか友との係わりとか、あるいは地域との係わりとか、あるいは今の灌漑をしなければいけないとか、自然との係わり、そうしたものが自ずから生まれてきて、子どもたちは自ずから先を見通す力を育て、生きることの意味（張りをもって生活していくこと）を感得していくという意味で、「暮らしのなかの食」が子どもたちの精神に与える影響が非常に大きいなあと思います。

白鳥市長

はい、ほかにどうでしょう。

白鳥市長

振り返りの中で、もっとこんなことをした方がよいということがあればどうぞ。

田畑教育委員

内山節先生の講演を聞かせていただいているんですけど、今、子どもたちは、自分の時代も総合学習で農業を経験しました。中学校に入るといろいろな課題もあって取り組み方というのは工夫が必要というところはあるんですけど、今20代、30代、40代、ちょうどこれから子どもたちを育てていく、また、子どもたちが巣立っていく親の世代で、先生の名著の題にもなっていますが、「いのちの場所」の投げかけっていうのが、一番欠けているのが、40代、50代の親の世代なのではないかと、自分の中では思っています、子どもたちは学校の中で学びを深めていきます

けれど、そこに関わる親たちが子どもたちが生産したものを持って帰ってきてというところから、じわじわ感じているところもあるんですが、PTAに向けた講演会を頻度を上げてやっていただいて、親御さんたちがこの伊那の地をいのちの場所として選んで、よく考えてきているんだけど、それを次の世代にどんなふうに語り継いだらいいんだろうということのヒントになるような講演をPTAの皆さんの発動で年1回でもやっていただくような形になると、川上と川下でちょうどいい形で伝承していくような場所のイメージができるんじゃないかなあと感じておりまして、前回は公開でやっていただいたんですけど、より多くに人が聞けるようなチャンスを与えていただけたらと思います。

白鳥市長

PTAに向けた講演会の開催ということがありましたけれど、そのことに関してでも結構ですし、ほかのことでもいいですけどどうでしょうか。

全委員（なし）

白鳥市長

それではほかのテーマに入らせていただきます。また、後で全体を通してお願いしたいと思います。

キャリアフェスの取り組み状況について、実行委員会の立ち上げ後の現状、それから課題等をお願いします。

(2) キャリアフェスの取り組み状況（経過報告）について

キャリアフェス実行委員会の立ち上げ後の取り組み状況

資料NO. 2に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

今、キャリアフェスの全体イメージ、タイムスケジュールについてお話がありましたけれども質問とか、意見があればお願いしたいと思います。

白鳥市長

実行委員会はどういう構成なんですか。

吉田学校課長

実行委員会は、いわゆる産学官ということでありまして、産業界からは経営者協会、商工会議所、商工会、青年会議所、JA、社協。学校はそれぞれの中学校のキャリア教育の担当の先生と校長会、教頭会からそれぞれ1名ずつお願いしております。行政部門からは、広域連合のキャリア教育担当者、公民館、それから市の中では、地域創造課、商工振興課にも入っていただいているということでもあります。それから教育委員会からは田畑委員さんにもご参加いただいているということでもあります。

白鳥市長

生徒は入っていないんだね。

吉田学校教育課長

まだこれからで、学年が変わったりしますので、なかなかこれだけ一斉に来るということがありませんので、年度が変わってから入っていただくように考えています。

白鳥市長

日程もまだなんだね。

吉田学校教育課長

今のところ、11月2日の金曜日を予定しています。

白鳥市長

これ、親はどうなんだっけ。

吉田学校教育課長

具体的にまだそのところまで行っていないんですが、どんな形で参加していただけるか、関わっていただけるかは、これからの課題として留まっているところであります。

白鳥市長

小学生、中学生は親の影響がものすごく強いからね。親が地元の企業を知らないとか、職種も知らないということだと、選択もうんと狭まってしまうので、できれば親のみなさんも自由参加で来て、どんな会社があるんだとか、どんな仕事があるんだということを、自分の目で見るという気がするので、そこら辺を実行委員会の中で検討しておいてください。

そのほかどうでしょうか。このキャリアフェスにつきまして。

松田教育委員長

今の親御さんの件ですけれど、今回このキャリアフェスを実施するに当りまして、生徒の参加もなんだけど、親の参加も大事に考えていきたいという方向性があったと思うんですけれど、できれば各学校でやっている授業参観とか、そういう行事のひとつをここに持って行って、親御さんにも子どもたちにも負担にならないような形で位置づけていけばいいんじゃないかと思います。もうひとつこれに加わるということになるとなんとなく負担感が出てくるので、参観日がここにきているというふうになればいいと思います。

白鳥市長

ほかにどうでしょうか。

原田教育委員

ビジネスブースを出される企業の募集はどうやられているのでしょうか。

吉田学校教育課長

再来週、3月26日にご案内をさせていただいて、その日に商工会議所で説明させ

ていただく予定です。既に商工会議所、商工会、それから各種団体を通じて、地区のみなさんに案内を出させていただいて、この日に説明会を行うことで予定しておりますし、期限についてもこれからでありますので、これ以外にも様々な形で投げかけをさせていただきます予定です。

原田教育委員

はい。

白鳥市長

企業の参加は大事なところなので、どういう参加をするのか、ただパンフレットを置いておくというのでは、子どもたち行かないので、そこら辺の思案もしてもらいつつ、逃してはいけない会社もあると思うんだよね。そういうところには直で話をしたりとか、努力はしていかないと、待っていれば来るというようなもんじゃないような気がするので、しっかりと動いてもらいたいと思います。去年、春富はどのくらい出たんだっけ。

吉田学校教育課長

ビジネスブースに26事業所、カルチャーブースに15出展しています。

白鳥市長

昨日も高校のあり方検討会があつて、上伊那8市町村、今まで検討してきた内容を県へ持って行って話をしてきたんだけど、地域にとって子どもたちがどういう存在であつて、将来に向かってどういうことをしていくのかということを確認にしていかないと、いい学校に入っていい会社に入っていう程度のものでは、子どもたちの力は発揮できないし、地域のつながりもなくなっちゃうと思うので、その辺が大事ですよ。上伊那らしい教育の環境づくりをしましょうねっていう話をしてきたんですね。今回のこのキャリアフェスも子どもたちの人生の一生の中の選択にいくつも引っかかるような、そうした刺激だとか、記憶に残るようなものになればと思いますので、そうした観点からどうでしょうか。

松田教育委員長

ちょっと広げ過ぎているんじゃないでしょうか。例えばブースの中で企業の方と深く関わるということが中心なわけなので、そこから離れてみんなで何か作るとか、歌を歌うというふうになると、1日の仕組みの中が二極化すると思うんですね。そうすると企業の人たちはその間何をしているのかという感じになってくるので、むしろキャリアフェスなんだからキャリアフェスに徹するというんですかね、そういうふうにして時間をたっぷり取るというふうにした方が拡散しないのではないかと思います。

白鳥市長

なるほどね。今、松田委員長からそうした話がありましたけれど、本来の目的を明確にしていかないと、ぶれてしまうと総花的で結局何のためにやったのかというふうになっちゃう。主目的は何か、それから去年の春富中学校、その前の伊那中学校での取組結果で子どもたちがどういうところで自分たちが変わることができたのか、どういったところに刺激を受けたのかというところをもう一度確認しないと、今、言われ

たように、例えばみんな写真を撮りましょうとか、何か作りましょうとか、1時間も2時間もかかっているようなことになる、本末転倒になってしまうかもしれませんね。ほかはどうですか。今のことにしても結構ですが。

田畑教育委員

実行委員として中間的な立場で、少し言いづらいんですが、今、大切な指摘をいただいたんですが、いろいろな人が入ってくるとこれもやりましょう、あれもやりましょうというふうになって、今が一番膨らんでいるところだと思います。これから取捨選択していくことになるんですけど、まず、春富中学校、伊那中学校もそうですけれど、子どもたちの感想のなかで、市長がおっしゃったように子どもたちが何に感動したのか、刺激的だったのかということで、こんなに伊那市のことを考えたり、企業のことを熱く語る大人がいると思わなかったという感想が多分一番子どもたちの中で印象に残ったと思います。それで、面白い大人にあったとか、どこそこの誰ちゃんはすごい人なんだという感想は、一番子どもたちの気づき・発見、親とか学校の先生以外にこんな大人がいるんだということがひとつの気づきなので、今回、これから募集の話と説明会があるんですが、実行委員長武田先生とも話をしているのは、通常こういうイベントをやると、企業紹介とか職業紹介というところで、参加される企業の方が一生懸命になって説明会で終わっちゃうと、今後、子どもたちにどんな目的をもって参加していくかを煮詰めていくんですけど、取材意識とか、誰か素敵な大人を3人くらいつかまえるということで、この会場にいる大人は学校の先生も、もしかすると同伴している親も、会場にいる大人誰でもいいので、つかまえて仕事のことだったり、人生のことだったり話をしよう。たまたまオープニングに時間を取っているのは、とにかく子どもと大人がぐちゃぐちゃに出会って、面白そうな大人を見つけて、よーいドンで、その人のやっているブースについていくというところからスタートしていくと、企業に興味を持つという切り口もありますけれど、何かこの人どんな人なんだろうという切り口でその人にくっついて行って話を聞くという形で、昔は町で大人と子供の垣根なく「ああじゃない。こうじゃない。」という話が町でできたものがなかなか難しくなっている、大きなテーマとしては、会場にいる大人は安心安全な人なので、どんな人にもとにかく声をかけてつかまえて、一人でも多くの人と話をしてみようということをやるとか、仕掛けとして持っていけると大人に興味を持つという切り口からキャリアにつながる。また、企業とかやっている製品からキャリアにつなげるという選択肢の自由度が広がっていくんじゃないかということ、イベント全体を通じてやっていけたらいいんじゃないかということがひとつと、あとはせっきやく、学年全部を集めるという取り組みというのは、先生たちからしてみるとすごいことなんです。この伊那市全体の中学2年生が一カ所に集まるということは、ある意味いろいろなエネルギーが出るだろうということで、心配もし期待する部分もあるみたいでして、今回成人年齢も18歳に変わっていくということもありますけれど、伊那市のこの世代の人数ってこれだけいるんだとか、これしかいないんだと思うとか、僕らが次の時代になると、ここにいるこのメンバーがこの年代なんだということを自覚してもらおうという意味の何かをやれたらいいかなということで、ここにはかなりの時間を割くというふうになっていますけれど、一堂に会したところから終日の中で、体感的に感じてもらえればいいんじゃないかと考えておまして、ここにはモザイク写真で乗っていますけれど、その辺も目的がほかのところ達成できれば手放してもいいかな、もっと交流であったりつながりあって言葉を交わすとい

うことに時間を割いていくことが大事なのかなということを感じてはおります。

あと1点、企業の募集の仕方が、今日実行委員会のメンバーと話す機会を作っているんですけど、個人的にある運送会社の食堂に声をかけたんです。「今までキャリア学習の受け入れもしていないし、なんとなく大事ということはわかっているんだけど、中学生に来てもらっても思っているので、ああ、またイベントをやるんですね。」と、「実は熱のある大人に会ってもらおうというスタンスなんです。社長のところにいる一番熱のある社員で仕事に対して思い入れがあったり、この地域に思い入れのある人を出してもらえればいいんです。別に総務の人でなくていいし採用担当でなくてもいいので。」と言ったら、「じゃあ、誰って言ったら俺だな。」って社長が言って「運送会社と言うとダークなイメージがあるけど、荷物を九州に運んでいくとき流れる景色とか、飯田から伊那に帰ってきたときの安心する気持ちとか、そういうことも伝えつつ、車窓カメラから撮った伊那の高速道路で、早朝の素敵な景色を眺めながら、俺らこういう思いで運転しているんだとか、新車で11月頃車が入るので、それを持ち込みするので、運転席に座ってもらって、これだけ車高の高いところに座って運転しているんだということを中学生に体験してもらおうといいかもしれないな。」というようなことを言うんです。「じゃあ、社長のところで新卒を採用するの。」と言うと、「うちでは新卒はないんだけど、でもこの地域の中で暮らしていて車好きとかトラック好きとかいると思うので、中学生で車が好きなんだよという子が乗ったら、ひょっとしたら人生変わるかもしれないから、別に5年後10年後うちに入ってくれるかは関係なく、この業種の魅力を語りたい。」と言われたんです。こういう人に来てもらいたいと思ったのと、あと「食堂で本当にものを作るのが好きだったら、別に中卒でも働いてもらいたい。」というところが実は数件ある流れのなかで、「何していいかわからない。」と、「とりあえず試食のソースかつ丼を食べてもらうだけでも参加はいいのか、それじゃあ意味がないのかと迷っている。」という話があったので、「そもそも中2の時に家を継ぎたかったのか、どこでどうなって、今は調理人という人生を選んだかということボードにまとめてもらって、それを試食している生徒に語るという参加はどうですか。」と言ったら、「それならできる。」と言ってくれる人もいるので、ちょっとキャリアフェスとカタカナ文字で出ちゃうと、大企業で通常の新卒を採用しているとか、通常キャリアの授業を受け入れている企業だけが申し込めて、ちょっとハードル高いなと思っている企業の中に実は熱のある人がいらっしやると、さっき市長が一本釣りも必要だとおっしゃったので、それぞれの団体で、採用とか募集関係なく熱があって、地域に対して課題やら思いを持っている人にブースを出してもらおうということが魅力のあることなんじゃないかということも思うので、一般公募で団体募集にチラシが行った中でどれくらいの企業が来るのかと思いますけれど、第一次説明会が終わった後の次のステップは、そういうところへ足を運ばなきゃいけない。足を使って掘り起こしていくということで、とは言え、両方で120ブースくらいになるんですね。

吉田学校教育課長

両方で、70～80です。

田畑教育委員

小さいところも含めて声掛けするスタンスが必要なんじゃないかなと感じているところでは。

白鳥市長

去年春富中学校へ行ったときに、こういう人も来てくれているんだと、例えば酪農家の乳搾り体験だとか、それでアイスクリームを作るとか、鉋を使っているだけで人だかりだったよね。いろんな業種があるということを知ってもらおうということもあるし、伝統的な力、腕を持っている人もだんだん減っているの、そういう人たちの参加も大事じゃないかと思うね。

田畑教育委員

名工登録されている方とかいらっしゃるといいですね。

白鳥市長

組子細工とかね。熊谷さんに来てもらって、すごい興味ある子がいると思うしね。ほかにどうですか。

宮脇教育委員長職務代理者

あまり総花的になってはいけないという話もあったんですが、一堂に会するということに関して、私も昨日東部中の卒業式に行ってきたんですが、1学年300人いるんですよ。その300人を目の前にすると、これすごいなと自然に思うと思うんです。だから小規模の学校も来ると思うんですけど、「ああ、伊那市にはこれだけ同世代がいるんだ。」ということも大事だと、せっかく一堂に会するので、確かに時間的にあまりかけてもあれですけど、ちょっとあった方がいいかなという気がしています。それで、今回整列するわけではないですから、シャッフルになるので大変かもしれないですけど、いい体験になるんじゃないかと思えますけどね。どうなるかわからないですね。

白鳥市長

何人になるの。

北原教育長

約600人です。

白鳥市長

大人も入れば1,000人。ほかにどうですか。

松田教育委員長

企業の方の参加が中心になって話されていますけれど、伊那市の伝統文化の傳承ということで、羽広の獅子舞とか中尾歌舞伎とかそういう文化のブースがあってもいいんじゃないかと思うんですね。子どもたちが理解を深めて一人でも二人でも傳承者になってもらえればいい。

白鳥市長

春富は出たよね。

北原教育長

今のカルチャーのところがそういうブースになっています。中尾歌舞伎と富県の獅子舞が参加しました。

白鳥市長

かつらを被る体験をしていましたよね。文化、芸能、それも大事なので、挟み込んでね。消防団だっていいしね。

吉田学校教育課長

はい。

北原教育長

今の文化、芸能で中尾歌舞伎を言ったのは、春富の子たちです。子どもたちが実行委員会をやっている中で、自分たちの地域だけではなく、そうしたものがあるんじゃないか、やはり、今回このカルチャーをやるなかで、自分たちの地域に是非伝えたいもの、伊那市にあるんだけれど、是非知りたいものということが、集まってくるのが子どもたちの考えだと思うんですけど、もう一点先ほど田畑委員さんが言ったんですけど、中学生が600人集まるというのは、大変なエネルギーだと思うんです。かつては、集まると生徒指導の問題があったんですが、今はそういうことでなく自然に学びに向かっていく、それは、共通している先ほどの食育であったりとか、ICTで交流したりとか、総合的な学習の発表交流会で子どもたちが一堂に会しているとか、そういうなかで一体感ができつつある。この学年が一つになるということは、「ああ、こんなに仲間がいるんだ。」と感じると思うので、先ほどのこともあまり複雑なことはできないんですけど、そうしたところで学んだところで一つになれる。時間が共有できるといいなあと思います。

田畑教育委員

ブースのなかで工夫しようと思っていることでいくつか出ていることは、発信できるブースを各会場に2つくらい設けて、中学生がぐるっと見てきて思いが溜まった時に、ステージを彼に開放してそこでしゃべってもらってブースをそれぞれの開場に設けて、見るだけじゃなくて私はこう思いましたとか、私はこうなるぞとか、しゃべれるところを大人がサポートしてあげながら、「今見てきてどんな気持ちになった。」とか、ミニ番組的にそこで発信できて、ちょっと細かいところはわかりませんが、インターネットの番組に編集して、在校生たちに見ていただけるような、お昼の時間にそれが飛ばせたら面白いんじゃないかということをお願いされていて、そろそろICTのネットができていようなら、来年の2年生たちも「俺たちも来年あそこへ行くんだ。」というふうになるんじゃないかなと思います。

白鳥市長

去年も伊那ケーブルで中継したりね、タイアップしていくという方向もあるだろうし、ネットでつながっているのをそれを上手に使うとかね。あと、最初から仕事が増えるというか、負担が増えるのでどこか削ったらどうという話をしたんだけど、そこらへんはどう工夫されるの。

吉田学校教育課長

はい。今予定しているのは、8月にやっていた中学生サミットは廃止していくということでありまして。それからひとつの検討として職場体験をどうだろうかということで検討したんですけれど、職場体験については実際に現地に行って職場で体験するということは、子どもたちにとって貴重なことであるから、それは是非続けていきたいということでありまして。ほかには今のところ結論に至っているものはないんですが、引き続き検討していきます。

白鳥市長

職場体験とこのキャリアフェスのつながりはどうなっているの。

吉田学校教育課長

職場体験というのは、現場で職業に触れてみるということです。

白鳥市長

この会場で体験して、この職場とこの職場に行ってみたいなと思って、交渉してみるとかそういうことはどうですか。これとのつながりはあるんですか。

吉田学校教育課長

それも検討させていただいたんですが、日程的に今のところ6月から7月が職場体験の中心になっておりまして、逆転してしまっているの、そこのところは課題だなと思っているんですが、現状はそういう状況であります。

松田教育委員長

今、市長さんのおっしゃったことはとても大事で、せっかくキャリアフェスがあるので、それが職場体験につながっていくと一連の流れになっていくので、今年は無理だけれど、どこかに置いておいて連続する中で取り組まれていくことがとても大事だと思うので、次年度くらいには検討してもらいたいと思います。

吉田学校教育課長

はい。

白鳥市長

ほかにどうですか。

全委員（なし）

- (3) ICT教育の現状（整備状況と取り組みの中間報告）について
今年度の整備状況、ICT教育の取り組み（成果、遠隔授業等）

白鳥市長

それでは、次に行かせていただきます。ICT教育の現状についてお願いします。

資料NO. 3に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

今の説明の中でご不明なこと、また、気がついたことがありましたらお話しいただきたいんですが、どうでしょうか。

北原教育長

先ほどの清水先生の分析のなかで、考える力が他と比べてそんなに伸びていないという部分があったんですが、実際授業を見ていても、ずーっと映像を見ていたりすると、子どもの考える時間がない。授業の構想の仕方にもあるんですけど、子どもたちに立ち止まって、「これはどうなの。」とか、あるいはいったんテレビをとめて、そういう時間を取るとかしていかないと、流されてしまうかなということがありまして、これは現場の先生も気づいて改善しようとしているところだと思いますが、正直に出ているところかなあと思いました。

白鳥市長

大事なところだと思いますので、ただ見ているだけにならないように、テレビとラジオと本では、テレビって1時間見ても記憶に残ることはほとんどない。自分も時々見るんだけど、なんでも鑑定団、前に見たことがある。同じ番組をずっと流している、でも気がつかない。ラジオなんかは記憶に残るんだけど、映像を見ているとよっぽどじゃないと記憶に残っていかない。そこら辺で授業の改善は必要かもしれないね。

松田教育委員長

このカラーのプリントなんですけど、これは新産業の教育部会の信大の東原先生がくださった資料なんですけれど、大変いい資料なのでお渡ししましたが、今、教育長さんの方から考えるというようなことが出ましたが、CCSでは対話的な学び、それから深い学びということを大事な視点に置いているわけなんですけれど、その視点でICTがどう活用できているかをまとめてあるんですけど、この写真は伊那市の写真ではないんですけど、例えばここに伊那市の新山小学校は素晴らしい実践をしているので、新山小学校の実践を分析して写真を新山小学校のものに入れ替えるとよく見えてくるんじゃないかと思うんですね。分析していくときにきちんと視点を置いて分析していかないと流されてしまうということを思いますので、参考にしてもらいたいと思います。

白鳥市長

ほかどうでしょうか。

白鳥市長

ICT教育とは言いながら、モニターが最初から100%いいということではなくて、試行錯誤があってだんだんに導入されていくべきものだと思いますので、今の考える力を切り口に分析したり、議論してもらおう。ほかにもあると思いますので、関連について注意をしながら進めていただきたいと思います。とは言いながら効果というのは必ずあるはずですから、一定の効果ということではなくて、やり方によっては大きな効果に変わってくることも十分ありますので、そうした授業の進め方を先生方に聞きながらやっていくのが大事じゃないかと思います。ほかはどうでしょうか。

白鳥市長

さっきのキャリアフェスの中でも11月2日の前に顔を知っているとかいうことで全然違うと思うので、初めて会ってあいさつをしてというより、顔を知っているだけでも違うと思うので、新しいツールを上手に取り込みながら進めてもらいたいと思います。ほかはよろしいでしょうか。

全委員（なし）

白鳥市長

それでは、今年度最後の総合教育会議であります、これで終了とさせていただきます。

ご苦労様でした。